

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより

Marianna Network

いこいの森

No.16

〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 電話 045-366-1111

「病院機能評価」の認定証を取得しました！

機能評価受審準備委員長
消化器内科部長 佐藤 明



わが国では一部地域を除いて病院の数はほぼ充足されたとみなされますが、各々の病院の質や機能には大きな違いがありました。病院機能評価とは、病院の質の向上、機能の標準化を目指し、医療機関を学術的、中立的立場から評価することです。この目的のために十数年前に日本医療機能評価機構という第三者機関が設立されて審査を行い、これまで全国8,832病院のうち2,556病院が認定されています。西部病院は平成16年に初回の認定を受け、このたびその更新審査に合格しました。

評価内容には、患者さまの安全管理、医療の質、療養の環境、病院の運営など病院のほぼすべての機能が網羅され、内容や基準は数年毎に改訂されます。それは高齢化など社会状況や病気の種類の変化、医療の進歩などによって病院や医療に求められるものが変わっていくからです。したがって評価する内容は改訂毎に増え、基準も高くなってきています。しかし審査を受けることで、病院の現状を客観的に把握でき、受審の準備により医療の質の向上とサービス改善が期待できます。当院では日頃も医療サービスの向上に取り組んでいますが、特にこの1年間の変化を感じた方もいらっしゃるのではないか。審査は12月に5人の評価者が来院し、2日半にわたり500以上の項目について質問と現場確認が行われました。無事、認定更新となりましたが今後も当院は、より質の高い医療と快適な病院を目指して努力を続けます。

「新型インフルエンザと当院の対応」について

新型インフルエンザ対策本部 副部長
呼吸器内科部長 駒瀬 裕子

メキシコ、アメリカから始まった新型インフルエンザは、海外からの帰国者でまず発見され、その後神戸、大阪で国内での感染が広まり横浜でも初の患者が6月6日に確認されました。当院では以前から毒性の高い鳥インフルエンザに備えて対策を立てていましたが、今回は幸い毒性の弱いインフルエンザということで、今までの対策を少し変えながら対応しています。

5月16日（土）、国内初の感染の確認がされた時点で、横浜市からの要請に従い駐車場脇に天幕の診察室を設営し発熱外来を開始しました。職員一丸になっての対応が求められるため、内科系だけではなく、外科系、放射線科などすべての診療科の医師、看護師、事務職員が毎日3交代で対応しました。

はじめには当院を含む9病院が対応し、その後18病院に増えました。発熱外来の対応患者数は表のとおりです。また、6月13日に当院の発熱外来ではじめての新型インフルエンザの患者が見つかりました。夏にはいったん患者が減ると思われますが、秋にはまた流行が広がる可能性があります。手洗い、咳エチケットなど基本的な予防をぜひお願いいたします。

●当院対応患者数●
5月／101人 6月／80人





クリニカルエンジニア部

クリニカルエンジニア部 部長

永納 和子

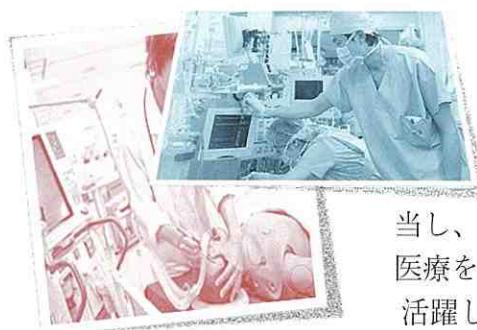


「クリニカルエンジニア部」とは一般の方にはあまりなじみのない言葉かもしれません。「クリニカル」とは「臨床」、「エンジニア」はご存知の通り「技術者・技士」を意味します。クリニカルエンジニアは日本語では「臨床工学技士」と訳します。そのクリニカルエンジニアが働いている部署が、クリニカルエンジニア部、通称CE部です。余談ですが「クリニカルエンジニア部」を部署の名称として日本で初めて用いたのは、この横浜市西部病院です。

1) クリニカルエンジニアとは

病院にいらっしゃるといろんな医療機器を目にされると思います。まず各フロアにあるAED（自動体外式除細動器）。これは今や駅やデパート、映画館などでもおなじみになりましたが、医療機器のひとつです。病棟にある心電図計、新生児室にある保育器などもご存知だと思います。それ以外にも、重症の患者さまを治療する救命救急センターや集中治療室、透析室や血管造影室など、今や治療・診断・検査などあらゆる分野、病院内のあらゆる場所でさまざまな種類の医療機器が使用されています。医療の高度化、専門化により機器の種類、数ともに増え、その構造や操作も複雑になりました。そのため、使用するときや保守点検に際して専門の工学知識が必要となり、医師や看護師のみでは対応しきれなくなっています。

クリニカルエンジニアはこれらの機器の取り扱い



に関して専門教育を受けた医療機器の専門家で、その資格は医師や看護師、薬剤師などと同じように国家試験に合格して与えられる国家資格です。

2) クリニカルエンジニアの仕事

医療機器のあるところはどこでもクリニカルエンジニアの仕事場です。特にたくさんの医療機器を使う集中治療室や手術室、血液透析室、血管造影室、新生児集中治療室などが中心ですが、一般病棟でもなくてはならない存在です。そのため、クリニカルエンジニアは、日常クリニカルエンジニア部の部屋にいることはあまりなく、院内のいたるところで働いています。

仕事の内容は、医療機器の点検・保守管理、故障時の対応と修理、さらに医師の指示のもとで血液透析器や心臓手術時的人工心肺、人工呼吸器などの医療機器を直接操作し、治療に参加しています。最近では、呼吸療法サポートチームという人工呼吸器を装着された患者さまの治療を行う医師・看護師・理学療法士などで構成されたチームの中で中心的な存在となっています。また医療機器を正しく取り扱うことは、医療を安全に行うのに大切なことです。すべての医療従事者に医療機器の正しい取り扱いを指導・啓発することもクリニカルエンジニアの大切な仕事です。

現在クリニカルエンジニア部には、女性3名を含む9名のクリニカルエンジニアが在籍しています。医療機器を通した臨床技術の提供と医療機器の保守管理を担当し、患者さまに対して高度な医療をより安全に行えるように活躍しています。

平成21年7月24日発行